



夜な夜な短歌集 第13巻 2018年 冬号

題「感」

感度、良好ですか？



# 冬が来た

首筋に集まる風の冷たさを冬のはじめと決めたこの朝

日曜に出したコートのポケットに片方だけの手袋探す

去年の冬落とした帽子編み直す馴染んだころはきっぱりと冬

みちくさ

青空の匂は冬だと思う。  
ピンと張りつめた空気を感ずるのが好きです。



## 違和感

この藍とあなたに見えるその藍は同じでしょうか星はこぼこえる

感情は左足にてわだかまる萎む布地に絡め取られて

冷たさに感覚のない指先にうまくとけずに残る結び目

冬だけに寒々しい感じにしたかったのですが…  
てか難しすぎたっす。



てる

ふたり

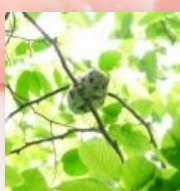
指先が髪をかすめた瞬間にセンサーが鳴る「恋に落ちます」

湯気の立つ豚まんを手にエスケープほおばりながら共犯になる

消えそうな日付が残るチケットを来年もまた「ねえ」って見せたい

Memoria(もも)

ひとひじゃなぐつて、あなたと一緒に感じられたらうれしい。



elegy for A

クリップでとめておきたい夢だったわたしの形をしてたと思う

うす切りでむかいあってる世の中で細胞壁が破碎されおり

きょうは死ぬ人はなん時に産まれたか知らないまま東病棟

ふみ

感 になつてますかね。  
ほんつとに難しいお題でした。

著者近影

呼んではあげない

くちびるにつむぐ語感を馴染ませる声に出さないあなたの名前

欲しいのは共感じゃなく横を行く人との違い踏みしめている

その指が触れた冷たさ 震えてる感情の名は呼んであげない

坂道を転がりはじめたことは隠しつつ  
簡単に落ちてなんてあげない

seri



雪に盛じて

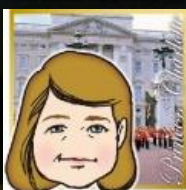
途轍もなく真っ直ぐに見る雪の顔、ゴゴゴゴゴゴ宇宙はじまる

軋む色冷え込んでゆく街の音 同じ表情しんしん積もる

頑なに雪は積もってゆくだろう冷たくされたことを忘れず

nonたん

雪国に生まれたせいで大雪にニヤニヤしてる俺がいる。  
毎日降って毎日寒い。





## 鈍感力

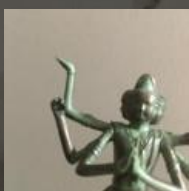
自分の糞をやたらめったら踏んでいるヤギの気持ちを知りたくない

ぶりっ子が最終的に勝つ世界なんだからもう好きにいったれ

床に落ちた赤福拾って食べている鈍感力を磨けお主ら

ちやありい

短歌おもしろいです。



## 直感

動物として鼻を近づけ牛乳のにおいを嗅いだ朝日さす庭

どうでもいいくじを引くのに指先は何かを感じることを待ってる

感覚は野生に戻る残業のデスクにのぼり仁王立ちする

難しいお題でした。  
がんばって「感」からいろいろ想像してみました。



テイ

音に溶ける

前後左右すべての音を感知しておのれの音を溶けこませゆく

ゆびさきの感覚のみを研ぎすませハイポジションの音をとらえる

ことばでは伝えきれない感情を腕から弓へ 弦がふるえて

太田青磁 (Sage)

短歌は言語表現ですが、どうすれば気持ちを直接言わずに  
その気持ちを伝えられるのか、試行錯誤の日々です。



シンデレ

突っ張った皮がピツ！と裂けた気がしたんだキミの凍てつく声に

お尻からゾクゾクうっ！と這い上がる寒気にも似たキミの微笑み

このときキミに逢えない日が続き感じる温もり春はすぐそこ

立春、過ぎましたねー。



七色一味

## 官能電流

触れた指ひんやりとして嬉しくていたずらに噛む愛しさにこめて

しなやかで柔らかい肌嗅いでみるあなたの匂いが恋しいんだ

顎伝う汗のしずくが落ちてくる舌這わせてあなたを感じる

五感を通して電流は流れる。官能は人それぞれ。  
能動的かつ受動的に取り交わされるものである。



masa

## 官能トリップ

耳朶の産毛を撫でる君の声遠くて近くて熱くて欲しい

望んでも手に入らぬ人を待っている私にだって感情はある

溢れそうなところで一度止められてもいちどそっと充たされてゆく

冷めても美味しい。恋は最高。



レイ

# 感情の器

うつわ

つながれた熱がこころを連れ戻すこころへ山茶花の微笑お庭へ

困り顔した犬みたいと触れてくるかさつく指に泣いてもいいの

わたしという名の器から溢れてく水はあなたを潤すでしょう

感情、感覚、感動…「感」とは、私にしか見えない、私にしか表せない、「心の動き」なのかなと思います。



hanak

20150318

夕食の配膳を待つ病室に無音で流れる相撲中継

帰宅する電気をつける大丈夫 あの子はすぐに退院できる

体温のひとつ足りないこの家を侵食していく沈黙の音

2015/03/18に子供（当時二歳）が入院しました。  
その時に感じた不安の形を詠みました。



れいぼ



## 分身

にんじんを買わなきゃと思い浮かべてつなぐ二歳が同じこと言い

ベランダで助けてとさけぶ3歳児ママが焦るの面白がって

どうしたあ？ゆっくり問われほつとする今までこっちがかけてた言葉

自分の一部分のような、そんな時期もありました

(\*^^\*)



uncle

余韻

とりどりにちりばめられた花吹雪纏う身体を染めあげてゆく

まばゆさに目を細めながら追憶のなかのわが子に思いを馳せる

手のかかることの喜び噛みしめて離れゆく背をしばし見送る

雪（永山雪）

さあ、おおきく羽ばたきなさい。



## 編集後記

「感」とは？

詠み人達にとって、いまだかつてなく難しいお題だったようです。  
誰よりも早く歌を手にすることができる編集人。  
締め切り日に怒濤の勢いで仕上がってきた歌たちに、感極まる思いでした。  
どうか読者の皆様にも、詠み人達のさまざまな「感」が届きますように。

企画・編集・写真 momonga（もも）  
（背景素材（5 ページ） somephoto さま）

夜な夜な短歌集第13巻2018年冬号／2018年2月発行／企画・編集 momonga（もも）

- 当歌集に掲載されている文章・画像等の無断転載はご遠慮下さい。使用する際は、事前に確認していただくようお願いいたします。歌集の紹介や読書メーターでのレビューは大歓迎です。
- 『夜な夜な短歌コミュ』とは、読書メーターにあるコミュニティです。短歌が好き、短歌を詠みたいというメンバーが集まって交流をしています。みなさんも良かったら一緒に短歌を作ってみませんか？ \*[夜な夜な短歌人による 夜な夜な短歌コミュをみる](#)